

○中央大学経済学会大会 去月九日中央大学大講堂にて貿易振興策なる演題の下に中央大学経済学会大会開催せられ聴衆七百有余、会長桑田博士の開会の辞に次ぎ鶴見商事局長登壇本邦貿易の現状に付き精細なる統計的研究の結果を発表され振興策として本邦商人の通弊たる粗品濫造の矯正自殺的不正競争の打破、直接貿易の奨励等豊富なる實際的知識を披瀝され拍手の裏に降壇せられたり次て関博士登壇先づ学者政策を論するの権威ありやを述へ学理の前には何人も屈服せざるへからざる旨を説き其前提の下に我近年に於ける輸入超過の趨勢は単に輸出の減少に止らず政府の財政政策特に在外正貨政策に源を求めざるへからずとて在外正貨と輸出入順逆の關係を統計的に例示せられ輸入超過を防かんと欲せば財政政策を改めざるへからずと論断し輸出奨励策は関稅政策と関連し関稅政策の根本問題は一國の經濟政策の如何即ち一般保護政策なりや特別保護政策なりや農本位なりや商工立国本位なりやに起因すと論し今や我國状は貨物を輸出すへきや將た人を輸出すへきやの危機に瀕せることを明にせられ更に我經濟の仏國の一般保護主義、米國の全米主義に比し同一經濟政策に依るへきにあらざるを主張され従て現今の如き我一般保護政策と商工立国本位とは学理上兩立せざる概

念なりと難し進て穀物関税の如きは速かに撤廃するの正当なることを説き最後に対清貿易策に関して特に紡績業の前途に対し細糸紡績奨励の得策なる旨を論述し喝采に送られて降壇次で小林博士登壇し得意の快弁を以て専ら財政的見地より振興策に論及し輸出不振の原因を租税の過重、公債政策の誤謬、産業の不振に求め一策として輸出奨励金制度に代ふるに輸出証券制度の利益あるを論せらる最後に田尻博士登壇輸出振興策として関税政策中関税制度の不備なることを論し須らく将来は未製品、半製品の輸入税の賦課の不得策なるを説き完製品に課税するの至当なるを述へ我将来は商工立国本位たらさるへからさることを明にし縷縷数千言一時間半に亘りて論し去り論し来り喝采声裡に演了せらる其散会したるは午後五時を過く閉会后更に親睦会を開催し一同歓を尽して九時に至り漸く退散したり（委員報）